

アベノミクスで気になるのは金利の動きである。積極的な金融緩和を通じて景気回復を図るリフレ政策で無理やりに物価を上げようとすれば、国債金利も高騰し、財政危機が表面化すると懸念する人もいる。ただでさえ1000兆円を超える公的債務（融資・保証など含む）を抱えて大変なのに、金利という「寝た子を起したら」大変なことになるといふ議論である。

伊藤元重の

ニュースな見方



\*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。

まり反応していない。

と考えるべきだろう。長引

り前のことで、デフレの時

物価が上昇すれば金利も上がるという見方の背景には経済学の「フィッシャー方程式」という考え方があり、実質金利は名目金利から物価上昇率（あるいはその予想）を引いたものに一致する。実質金利が実体経済で決まってくるのである。物価上昇率が上がれば、それに応じて物価上昇率が高くなるといふことが、デフレの中で物価上昇率

上がるといふ見方の背景には経済学の「フィッシャー方程式」という考え方があり、実質金利は名目金利から物価上昇率（あるいはその予想）を引いたものに一致する。実質金利が実体経済で決まってくるのである。物価上昇率が上がれば、それに応じて物価上昇率が高くなるといふことが、デフレの中で物価上昇率

# 財政再建へ「第4の矢」を

た構造的問題を解消するために、重要なことである。安倍内閣は

ば、物価上昇率が上がれば、それと同じだけ名目金利も上がるという考えだ。ただ、今の日本のように物価上昇率が高くなっても物価上昇率がゼロ近辺にある名目金利はそれほど上昇しては、方程式は働かない。つまり実質金利が下

り前のことで、デフレの時水準であったスペインやイタリアの金利が、その後、急速に上昇した。市場の国債評価とは当てにならないものである。

の伸び以上に抑えられるかも知、デフレからの早期脱却は重要なことである。安倍内閣は、もともと、長期金利は、日本の財政再建が難しいと市場から見られれば、いつでも急上昇しかねない。欧州で起きたことを見ても、リーマン・ショック前にはドイツとあまり変わらない

## リフレ政策、金利上昇懸念

これは考えてみれば当然

は減少していく。

（東大大学院 経済学研究科教授）